

日比間の人の移動における支援組織の役割 (1) アッサンブラージュ論を手掛かりに
The Roles of Support NGOs for Migration between the Philippines and Japan(1)
Focusing on the Issues of Migrant Women and JFC(Japanese Filipino Children)
from the Transnational Assemblage Approach

小ヶ谷千穂 OGAYA Chiho (フェリス女学院大学 Ferris University)

キーワード：支援組織、トランスナショナル・アッサンブラージュ、移住女性、JFC、
日本、フィリピン

【1. 研究の背景と目的】

本研究は、過去 30 年以上にわたって日比間の人の移動を大きく特徴づけてきた、在留資格「興行」での女性エンターティナーの流入とその帰結としての Japanese Filipino Children (JFC) の誕生・成長そして日本への新たな流入という一連の現象が日比双方の社会において「社会問題」視されてきた過程の中で、日比双方における支援組織がアクターとして果たしてきた役割について、複合的な視点から明らかにすることを目的とする。共同研究である本研究のうち、本報告においては、とりわけこれまで日比間の人の移動において重要な役割を実際には果たしてきながらも、移動をめぐる「アクター」としては必ずしもみなされてこなかった支援組織について、代表的な 3 つの組織の活動の推移を振り返る中から、その具体的な役割をアイデンティファイし、必ずしも一方向ではないそれらの活動のありようが再帰的に日比間の人の移動を水路づけてきた経緯についてアッサンブラージュ論を手掛かりとしながら、明らかにしていくことを目的とする。

【2. 本研究の対象と方法】

本研究は、主にフィリピンに拠点を置きながら、これまで JFC とその母親の支援やエンパワーメント活動にかかわってきた代表的な組織である、Batis Center for Women, DAWN(Development Action for Women Network)、マリガヤ・ハウスおよび JFC ネットワーク、と協力関係を結び、それぞれの団体の活動の総括作業に協力する形で過去 20 年～30 年に渡る活動に関する資料収集、スタッフやクライアントへのインタビューや、フォーカス・グループ・ディスカッションなどを行ってきた。各団体の活動の振り返りに寄与するような資料整理や協力を行ったという点において、アクション・リサーチ的な性格も備えている。調査期間は 2017 年 8 月から現在も進行中である。

【3. 分析の視点】

これまで、人の移動をめぐる支援組織の役割については、たとえば移民への支援活動がホスト社会の市民社会に与える影響が議論されてきた(小笠原ほか 2001、シッパー2010)。本研究の対象である JFC とその母親の支援団体については、Seiger(2017)や Celero(2018)が、とりわけ JFC のアイデンティティにもたらしてきた多様な影響を検討している。また、本研究プロジェクトの協力団体はいずれも、自らがアドボカシーの一環として重要な出版物を刊行してきたし、さまざまな研究者やジャーナリストに調査の機会も提供してきた。しかし、日比間の人の移動において、これらの組織が直接・間接的に果たしてきた役割そのものに着目した研究はそれほど多くない。本研究では、グローバルな社会的諸現象を考察するうえで、多様な水準のアクターや構成要素同士の相互作用自体が、相互参照や相互批判の中で現象やそれをめぐる知識や言説を動的に構築していくと考える Global Assemblages の概念を援用し、日比間の人の移動における複数の次元において、上記の支援組織がどのような役割を果たしてきたのか、

という点について着目する。

支援組織は、そこにかかわる個人（JFC、母親、そしてスタッフも含めた）の経験を相互行為の中から構築する。また、支援組織の活動自体が、それら個々人の経験から影響を受け、同時に個々人のライフコースや選択に大きな影響を持っていく。とりわけ、これまでの日比間の人の移動の推移—エンターティナーの移動と「JFC問題」の誕生、日本人の父親探しや日本社会へのアピール、在留資格「興行」の厳格化、国際婚外子の国籍法裁判の勝利と国籍法の改正、そしてその後のJFC母子の来日など—において、支援組織が果たしてきた役割は、単に「支援」という言葉にとどまらないものと言える。

【4. 考察】

対象となる支援組織がこれまでに果たしてきた役割は、さしあたり以下の3つに集約されると考える。①言説構築：「反人身売買」「日本人の父親に会いたい」「子どもの権利としての国籍」といったエンターティナーやJFCをめぐる「諸問題」を大きくフレーミングしてきた諸言説の生産。②移動の阻止と、直接・間接の移動の媒介：日本社会へのアドボカシー、日本での父親との面会の実現、認知や国籍取得のための法的支援、といったこれまでの活動が、搾取的な移動の阻止を目指し同時に子どもたちの権利保護を実践してきたことによって、結果としてJFCや母親たちの来日をもたらしめている。③社会的「場」としての役割：JFCと母親たち、さらにはスタッフも含めた経験と相互関係、アイデンティティの構築の場。

これらの役割が、時には矛盾しながらも同時的に進められてきたことによって、支援組織は日比間の人の移動において、越境的な「非国家的主体」（サッセン）として立ち現れてきたのではないだろうか。本研究は、これらの団体の約30年に渡る活動の総括であると同時に、その総括を通して、トランスナショナルな支援組織の役割について、あらためて考察するものでもある。

【参考文献】

Celero, Jocelyn, 2018, "Bonds, Bridges, and Links of Hope": Migrant Support Organizations (MSOs) as Agents of Immigration Family Integration", in Zulueta, Johanna, ed. *Thinking beyond the State: Migration, Integration, and Citizenship in Japan and the Philippines*, Sussex Academic Press.

Collier and Ong eds., *Global Assemblages: Technology, Politics, and Ethics as Anthropological Problems*. Blackwell.

小笠原公子・小ヶ谷千穂・丹野清人・稲葉奈々子・樋口直人 2001 「外国人居住者の権利と参加—外国人支援組織の可能性」NIRA・シティズンシップ研究会編著『多文化社会の選択—「シティズンシップ」の視点から』日本経済評論社。

シッパー、アピチャイ 2010, 「日本の多文化民主主義を見据えて—外国人支援NGOが持つ意味」加藤剛編『もっと知ろう！！わたしたちの隣人』世界思想社。

Seiger, Fiona-Katharina, 2017, "Consanguinity as capital in rights assertions: Japanese-Filipino children in the Philippines," in *Critical Asian Studies*, Vol. 49, No. 2, 207–225.

※本研究は科学研究費基盤(B)「日比間の人の移動における支援組織の役割：移住女性とJFCの経験に着目して」(研究代表者：小ヶ谷千穂)による研究成果の一部である。